

## 平成 27 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

### 1. 申請部局

申請学部・研究科名： 教育学部

事業担当者の職・氏名： 後藤太一郎

内線電話番号： 9 2 6 0

電子メール： goto@edu.mie-u.ac.jp

### 2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

シンガポールにおける海外教育研修実施に向けた調査

### 3. 事業内容の別 (該当の□を■に変更)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

(様式 2-2)

#### 4. 事業の取組結果

##### (1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

シンガポールは人材育成の面で先進的な取組をしており、教員養成や教員研修にも力を入れている。教員養成については、南洋理工大学(Nanyang Technological University)に付属された国立教育学院(National Institute of Education, NIE)で行われている。NIEは教育分野で大学世界ランキング10位(アジアで2位)であり、専門性の高い教員とリーダーの育成のために、すべての教育段階に向けた学術的プログラムを提供している。このような取組は、本学の教員養成の今後を考える上で参考になる。また、教員を目指す学生のための海外派遣のための訪問先としても魅力的であり、NIEとの交流進めたいと考えてきた。本調査では、NIEにおける取組調査およびシンガポールの小中学校および高校で授業視察を行い、教育学部の学生のための教育研修プログラム実施に向けた打ち合わせを行った。

##### (2) 事業の背景・これまでの実績

教育学部の学生のための海外派遣プログラムとして、海外の教育現場の視察が重要である。教員を目指す学生がこのような教育現場に触れることで、教員になるためのモチベーションを高めると考え、申請者はニュージーランドにおける海外教育研修プログラムを企画し、平成23年度に第1回目を実施して毎年継続している。このプログラムには毎年10名以上の学生が参加し、参加学生からは、国際理解が深まり、留学、学習への意識も高まったと高い評価を受けている。また、アジアにおける海外教育研修についても検討をはじめ、平成26年度にはベトナムのホーチミン市師範大学における調査を行った。これについては、平成27年6月に「さくらサイエンスプラン」によりホーチミン市師範大学理科専攻の学生10名を招へいして学生交流を行った。平成26年にはシンガポールのNIEを訪問する機会があり、人材養成の進むシンガポールは、学生の海外研修先として適していると考え、27年度の調査を計画するに至った。NIEの理科教育分野の副学部長である、Dr. Daniel Tanとの交渉を重ね、小中学校の授業参観とNIE訪問が可能となった。

##### (3) 事業実施結果

調査期間は平成28年2月20日(土)～24日(水)で、訪問者は事業担当者である後藤太一郎と、教育学部理科教育・准教授の國仲寛人の他、科研による調査研究のために教育学部技術教育・教授の松本金矢も同行した。

21日(日)は、Science Centerという科学と技術教育に特化した国立博物館を訪問し、特に子どもの体験展示を視察した。

22日(月)はElias Park Primary School(生徒数770人24クラス)という小学校を訪問し、副校長および理科専門教員との面談を行い、シンガポールにおける教

員の組織構成や昇進制度、研修制度についてのインタビューを行った。また、理科の授業参観を行い、授業検討を行った。日本の授業研究に高い関心を示していた。

23日はSt. Joseph's Institutionという中学・高校を訪問し、校長や理科教師からこの学校や理科授業について説明があり、授業参観を行った。シンガポールはICT教育が進んでいるが、実態は日本と大きな差がなかった。また、午後にはNIEを訪問し、NIEで行われている教育についての説明を受けた。そして、今後実施可能な教育研修プログラムについて意見交換を行った。

#### (4) 事業の意義・発展性

学部として学生に多様な海外研修・体験の機会を提供することが、学部の国際交流事業として欠かせない。教員養成学部にふさわしい教育研修をアジアの国に置いても展開する中で、人材養成が進み、英語による教育が行われているシンガポールは研修先として適している。さらに、NIEという、世界レベルでも教員養成や教員研修のトップにある大学での交流は学生にとっても魅力的なものとなる。

今回の訪問により、NIEや小中学校における授業参観を主体とした短期研修プログラムのプランを具体的に立てることができ、早期に実施することが可能となった。1週間程度の短期研修であれば参加学生にとっての負担も少ない。

このように、今回の調査は、教育学部としての特色ある海外研修プログラムの創発となった。大学院の授業としても位置付けることで、現職教員にとっても魅力的なものとなり、大学院生の確保につながることも期待できる。

#### (5) 事業の発展性

南洋理工大学は世界ランキングでも13位にあるなど、国際交流を進める大学としても魅力的であり、全学的に交流を進めるべきであると考えている。今回のNIEとの交流はその一つと位置付け、短期研修プログラムの実施とともに、将来的にはNIEと教育学部の協定、さらには本学との大学間協定を目指したい。そのためには、本学の教員による南洋理工大学との共同研究の実態について調べ、交流を広げる必要がある。

#### (6) 第2期中期目標・中期計画における位置づけ

I-3-(2)-3-1: それぞれの文化の特性を尊重しつつも全体として融合した優れた多文化社会の共創に向けて、多文化に関わる学内の研究成果を活用したシンポジウムや公開講座の開催を推進する。

に伴う活動。

I-3-(2)-2-2: 学生の国際性の涵養を図るため、ダブル・ディグリープログラム、3大学ジョイントセミナー、海外インターンシッププログラムなどの学生派遣・受入れプログラムを充実させる。

(7) その他

(助成に関する要望事項等)